

ブラジル  
アマパ・イニシアティブ  
現地からのお便り（2021年7月～2022年6月）

2022年8月  
コンサベーション・インターナショナル

ブラジルにおける「空気をはぐくむ森」プロジェクトは、アマパ国有林とアマパ州有林、2つの保護地域の保全を目的として、2014年から活動を行っています。主な対象は保護地域の内外に暮らすコミュニティで、人々の生活向上が森林生態系の保全と両立するために、コミュニティ組織の強化、保全に向けたコミュニケーション戦略、コミュニティによる木材および非木材産品を活用した活動の支援を行ってきました。

これまでの活動では、木材の持続的な管理、アンディローバ（オイルを抽出し化粧品などに活用）、コパイバ（オイルを抽出し化粧品などに活用）、レジン（天然樹脂）、ファーベ（豆）などの非木材産品の採取から製造に至る一連の活動支援、アグロエコロジーと呼ばれる自然に優しい農法の導入などを行い、活動を通じてコミュニティ組織の能力強化にも取り組まれました。2014年から2017年にかけてプロジェクトが開発した研修コースは計27に達します。

### コミュニティ組織の活動

新型コロナの影響により、2020年3月から2021年7月まで保護区への立ち入りが厳しく制限されましたが、2021年後半からは徐々に活動を再開しました。

プロジェクトでは、これまでコミュニティ組織の能力強化に取り組んできましたが、そのうちの1つ、森の種子協会はサプライチェーン強化に向けて、アマゾンで活動する3つの活動母体、Iepé（先住民族調査研究所）、マミラウラ持続可能な開発研究所、アマパ基金と新たなパートナーシップを開始しました。

また、森の種子協会はポルトグランテ市の保健当局と連携し、歯科検診、COVID-19のワクチン接種、地域コミュニティへの回診サービスなどのキャンペーンを実施しました。キャンペーンは2021年から2回開催され、2022年12月に3回目が予定されています。

現在森の種子協会はAraguari川のほとりに新しい事務所を設立しています（写真）。この事務所は、今後集会場、バイオ化粧品づくりの作業場、エコツーリズム客へのバイオ化粧品の販売拠点などとして活用していく予定です。

これまでの活動でコミュニティ組織の能力が高まり、自然資源の持続的な活用が促進されたことが、今こうした様々な活動の展開に繋がっています。



写真：建設中の森の種子協会の新しい事務所 ©Arlete Pantoja.

## 非木材産品

非木材産品に関わる活動も 2021 年後半から徐々に再開しています。2021 年 9 月には 2 人のコミュニティリーダーが、パラ州で開催された森林エキスを活用した新しいオーガニック製品にかかる研修に参加しました。プロジェクトでは、植物由来のバイオ化粧品の開発に携わってきましたが、この研修は更なる能力向上に向けて重要な位置づけになります。下の写真は森の種子協会が製造した化粧品の例です。

次のステップは森林インベントリの作成、森林資源を持続的に活用するための採集ルートのマップ化、社会的企業の能力向上に向けた研修の開発などを予定しています。さらに、ブラジル農牧研究公社（Embrapa）、アマパ州研究所（IEPA）とのパートナーシップにより、バイオ化粧品に用いられている各成分の分析を予定しています。



バイオ化粧品のサンプル



コパイバオイルを使った石鹸



アンディローバオイルを使った石鹸



アマゾン自生植物の Breu Branco から  
作った石鹸

## コミュニティによるエコツーリズム

エコツーリズム活動は COVID-19 の影響を大きく受け、2021 年は活動を休止していました。この間、森の種子協会はより活動の幅を広げるために Mamirauá 研究所とのパートナーシップを結び、活動再開後の活動計画を検討しました。その上で 2022 年から活動を再開する予定でしたが、活動計画に関してステークホルダーとの意見調整に時間がかかったため、現時点で来年からの活動再開を見込んでいます。

検討中のエコツーリズムの新しいルートでは、現在建設中の森の種子協会の新しいオフィスや、周辺コミュニティで計画中の蘭の温室栽培などへ立ち寄り、地域住民との交流を楽しむと同時に、バイオ化粧品や地域製品の販売を通じて住民の生計向上に資するものを目指しています。

## 林業（木材生産）

アマパ国有林の林業強化のため、ICMBio がドイツ復興金融公庫（KfW）の森林管理プロジェクトから USD195,000（約 28 万円<sup>1</sup>）の支援を受けることが決定しました。契約の事務手続きに時間がかかっていますが、プロジェクトは 2023 年から開始予定です。プロジェクトは農牧研究公社（Embrapa）から技術支援を得て実施します。

## 新しいプロジェクト

プロジェクトが基盤を築いたことにより、対象地域では 4 つのプロジェクト、「持続可能でレジリエントなタパジヨス<sup>2</sup>」「低炭素社会の構築と活用<sup>3</sup>」「Restaurata – 森林の再生」「アマパ基金」が新しく始まりました。

「持続可能でレジリエントなタパジヨス」は 2018 年にアマゾン基金からの資金で始まりました。プロジェクトの目的は「空気をはぐくむ森」プロジェクトと同様に、コミュニティ組織の強化を通じた持続可能な林業と非木材林産物生産する取り組みで、パラ州西部の 3 つの保護林 Tapajós, Trairão and Itaituba I、を対象に実施しています。

「低炭素社会の構築と活用」は、GCF-TF（州知事気候と森林のタスクフォース）が資金を拠出し、2022 年 6 月から実施されています。プロジェクトの主な目的は、アマパ州の保全の取り組みが REDD+ Environmental Excellence Standard の基準を満たすことと、国際的な官民連携型の熱帯雨林保護イニシアチブ LEAF<sup>4</sup> の枠組みを有効活用することです。

<sup>1</sup> 2022 年 9 月 21 日のレート（1USD = 143.77JPY）で換算

<sup>2</sup> タパジヨスはアマゾン川の支流の 1 つ

<sup>3</sup> “Unlocking and Leveraging Low-Emission Development” project

<sup>4</sup> 2021 年 4 月、気候リーダーズ・サミットの中で発足した、官民連携型の熱帯雨林保護イニシアチブ「Lowering Emissions by Accelerating Forest Finance（LEAF）」

「アマパ基金」はアマパ州の保護区と先住民族の土地の統合的管理を支援することを目的として、2022年にCIとGCF（緑の気候基金）が設立し、これまでにバイオ化粧品やブラジリアンナッツのサプライチェーン開発などの支援をIratapuru地域で実施してきました。アマパ基金の規模は約300万ドル（約4.3億円）で、毎年州内の新しいプロジェクトの支援に使われていく予定です。

CIはこれからもアマゾン森林地域の持続的な社会の実現を目指して、取り組んでいきます。

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。